

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第13号

民族総福音化運動の目的 —すべての日本人に福音を—

日本民族総福音化運動協議会総裁
世界宣教センター所長

奥山実



私が日本民族総福音化運動に参加したのは、敬愛する申賢均先生と手束先生のお誘いによることは、何度か、いくつかの場所でも明らかにしたので万人の知るところとなつてゐる。

私は喜んでこの運動に参加した。それは私の信仰と見事に一致しているからである（神学的には、私の伝道論、宣教論とびたりと一致している）。

伝道とは何か。それは教会を大きくするためではない。我々人間の野心（少しきれいな言葉でビジョン）を実現するためではない。

伝道とは、主イエスの命令を実行することである。主イエスは我々に、何と命令しておられるか。

全世界に出て行き、すべての造

られた者に、福音を宣べ伝えなさい。（マルコ二六・一五）

つまり、「すべての人に、福音を伝えよ」と主イエスは命じられたのである。

だから、一つの地方教会は、教会の周りの「すべての人に」福音を伝える責任がある。パウロはこれを「負債」と言った。借金は道徳的にも返さなければならぬのである。教会が大きい小さいかは関係がない、重要なことは、主イエスの命令を実行する事だ。

この主イエスの宣教命令を、文字通り実行したのは、初代教会とパウロである。

地上最初の教会、エルサレムの教会は、エルサレムの全住民に福音を伝えたのである（使徒五・二八）。パウロも同じであつて、パウロがアジア（小アジア西部）に入るや、二年間でアジア中の「すべての人に」福音を伝えたのである（使徒

一九・一〇）。

またパウロは「今は、もうこの地方には私の働くべき所がなくなりました」（ローマ一五・二三）と言つて、これがその地方のすべての者がクリスチャンになつたということではなく、「すべての人に福音がどけられた」ということである。

このように、初代教会も、パウロも、主イエスの命令を文字通り実行したのである。これが伝道である。我々は我々の欲を満たすために伝道しているのではない。

この主イエスの宣教命令である「すべての人に福音を」（マルコ一六・一五）は、「イコリント一・一二」にびたりと符合する。

事実、この世が自分の知恵によつて神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによつて、宣教のこゝとばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。

この「宣教のこぼれ」とは、ギリシャ語で「ケリュグマ」(ケリュグマと書いてある神学書もあるが、厳密には「ケリュグマ」が正しい発音。しかしあまりこだわることではない)である。

「ケリュグマ」とは何か。それはもともと「王の布告」のことで、例えば王が消費税を五パーセントと決定したら、それを全人民に知らせなければならぬので、僕たちを遣わして、これを全人民に知らせることを「ケリュグマ」と言う。

そこで、遣わされた僕たちは、町々、村々に行つて、大声で叫ぶのである。

「皆さん聞いてください。今日から消費税は五パーセントですよー！」と。

「ケリュグマ」の本質は、「すべての人に知らせる」ということで、一部の人では駄目なのだ。

「福音の宣教」も同じことで、「一部の人に」ではなく「すべての人に」なのである。

主イエスが開かれた救いの道を、「すべての人に伝える」のが宣教である。

救いの道を知っていながら、これを人に伝えないのは罪ではないのか。

だから前述の如く、一つの地方教会は、教会のまわりの「すべての人に」この救いの道を伝える責任(負債)がある。

初代教会もパウロもそれを実行したが、パウロの宣教に注目していただきたい。

これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシャ人も主のこぼれを聞いた (使徒一九・二〇)

であつて、パウロがアジアの地に足を踏み入れた時、「五〇〇人教会をつくらうか、いや一〇〇〇人だ」などという人間的計画で伝道したのではない。パウロは主イエスの命令どおりの伝道をなしたのである。この命令に従つてアジアに住む「すべての人に」福音を伝えたのである。ところがこの最後のみ言葉が重要だ。「みな信じた」のではなく、「みな聞いた」のである。

では何故そんなに「聞く」事が重要なのか、それは「マタイ二四・一四」と関係があるからである。

この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかされ、それから、終わりの日が来ます。

と主イエスは言われた。いつ「世の終わり」が来るのか。それは地上のすべての人が救われてキリスト者になった時ではなく、すべての人が福音を「聞いたとき」である。だから福音を「聞かせる」ことが重要なのだ。

ところが、殆どの教会が、この重要なケリュグマを忘れていて、私は教会成長に反対ではない。教会が大きく(数の上でも)なることは素晴らしいことである。しかし主イエスは一言も「大きい教会をつくれ」と

は命じていない。「キリストの体をたてよ」である。

実は、主イエスの命令どおりの伝道・教会ほど平安にみちたものはない。それは「すべての人に福音を伝え」(マルコ一六・一五、一コリント一・一二)、救われた者を立派な「弟子とする」(マタイ二八・一九)の二つをやればよいのだ。私が八尾で開拓した時、この二つを実行した。次の牧師に教会をゆだねてインドネシアに出発する時、八尾十五万人の「すべての人に」福音を伝える方法と弟子化を教えたが、一時は数の上で信徒数一〇〇〇名を超え日本一になったことがある。しかし目的は数の上で

の日本一ではない。主イエスの命令の実行である。

地上のすべての人に福音がとどいて「世の終わり」である。日本民族総福音化運動の目的は、日本人のすべてに福音をとどけることである。そして「世界宣教の達成」に貢献すること(マタイ二四・一四)であつて、日本の教会は世界のためにあることを忘れてはならない。人に喜ばれることではなく、主に喜ばれることを求めるべきである。

みこぼれを宣べ伝えなさい。時が良くて悪くてもしつかりやいなさい。(IIテモテ四・二)

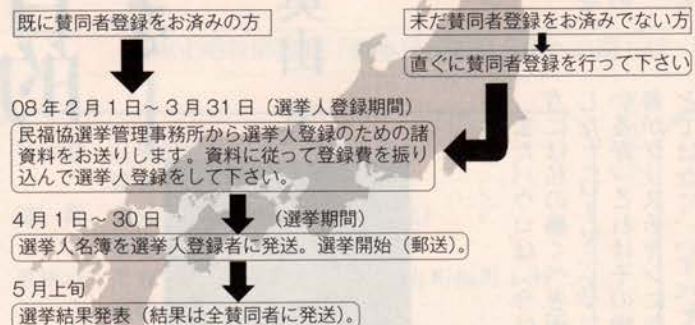
公 告

評議委員選出選挙【選挙人登録者募集】

日本民族総福音化運動協議会(民福協)は、2003年6月に韓国民族総福音化運動(当時の総裁:故申賢均牧師)の支援を受けて発足いたしました。2005年に民福協は韓国サイドより独立して、日本人の手によって活動をして参りました。民福協の活動理念の一つは、賛同者達の熱い思いを汲み取り、できるだけ反映させていきたいということです。そこで3年に一度選挙人による直接選挙で評議委員の改選を行い、評議委員会を組織するという形をとっています。2005年に第1回評議委員選挙を行いました。そして来年2008年、第2回評議委員選挙を行います。

そのために民福協選挙規約に則り、まず賛同者が自らの意志で選挙人(被選挙権と選挙権を有する)登録をしていただき、登録された選挙人の互選によって評議委員を選出いたします。賛同者の方は、本会報誌13号6~7頁をご覧ください。賛同者でなくとも、関心のおありの方は、事務局までお問い合わせ下さい。

●選挙人登録と選挙までの手順



日本民族総福音化運動協議会

選挙管理委員長:行澤一人 委員:新谷和茂 選挙監理事務所:高砂教会内
〒676-0015 兵庫県高砂市荒井町紙町 1-34
電話 079-442-4854 FAX079-442-4878 Eメール info@takasago-church.com

ブロック活動レポート 関西ブロック

関西ブロック長

山中一正

(淀川栄光教会牧師)

■キック・オフ(第一回)集会 六月一日(日)午後三時～五時、淀川栄光教会にて行われた。参加人員は約九〇名。メッセージは手束正昭師が取り次ぐ。少し出遅れていた関西ブロック集會は、この日をもってキック・オフ集會を持つことが出来た。しばらく頸椎後縦靱帯骨化症のため入院闘病中であつた手束正昭師の全快を受けて、師を迎えての喜びの集會となつた。日本民族の五一%が救われるためには、この運動がいよいよ全国規模で各地域が立ち上がつて、草の根運動を起こしていこうという師の力強いメッセージを通して関西ブロック集會の幕が切つて落とされました。(山中記)

■第二回集會 八月五日(日)午後三時～五時、日之出キリスト教会にて行われた。参加人員は約五〇名。メッセージは行澤一人師が取り次ぐ。キック・オフ集會を受けて、ブロック集會の定例化への第一歩を踏み出した。集會では、日本の政治的・社会的な大變動を受けて、今後いよいよ混乱の中から大きな靈的渴

仰が起こされ、歴史的なりバイバルの季節を迎えるであろう事が励まされた。その後、参加教会の兄弟が入り混じつてスモール・グループを作り、共に祈りあつた。特に、牧師のグループには七名の牧師たちが加わり、祈りにおいて地域の教会が心を合わせる事の重要性が確認された。(行澤記)

■第三回集會 一月一日(日)午後三時～五時、リビンゲジーザス・チャーチにて行われた。参加人員は約八〇名。メッセージは松平哲也師が取り次ぐ。日本の民族に神の御力が顕わされ、この国の上に神の栄光が顕されること、それが一日も早く起こることを祈り求めています。西の方では、主の御名が、日の出ずる国日本では、主の栄光が現される。なぜならそこに神は激しい流れのように来られ、その中に主の息、聖靈が激しく臨まれて、神の御旨を顕されるのです。(松平記)

■第四回集會 一月一八日(日)午後三時～五時、宇治福音教会にて行われた。参加人員は約四〇名。メッセージは後藤利昭師が取り次ぐ。宇治福音教会で民福協の集會が初めてもたれた。後藤利昭師(関西ブロック副ブロック長)からは、当日、王妃エステルのごとく、今クリスチャンは日本民族という視点に立つて、同胞の救いのために立たなければならぬとの、力強いメッセージを頂いた。恒例により、参加者みなで、宇治の地における救霊の前進と同教会の成長を力強く祈つたが、同教会の若い兄弟によつて導かれた素晴らしい

ブロック活動レポート 沖縄ブロック

沖縄ブロック長

當銘由正

(聖書福音聖川教会牧師)

沖縄ブロックは、民福協に賛同されている教役者はまだ少ないのですが、それでも一人二人と加えられ、現在は十二人となり、今年度も毎月賛同教会を巡つて教役者だけの祈禱会や五つの教会での聖会を持ち、四月には奥山実総裁を迎えて「世界宣教と教会」(マタイ一四・一七)の聖会を持ちました(出席者八二人)。

十一月には韓国から崔世雄先生ご夫妻と八人の婦人達をお迎えして、聖川教会を会場に三回のセミナーを持つことができました。出席者は三回で二一四人でした。

崔先生はイザヤ六章一三節と使徒一八章九の一節を中心に話をされました。テーマは「伝道力アップ」です。独特な話の展開に驚いたり、涙を流したり、笑ったり、感動した

しい靈的賛美の流れの中で、主からの油注ぎを強く感じた。その後、スモール・グループに分かれての祈りが持たれたが、牧師のグループには

りで、一回二時間のセミナーがとても短く感じられるほどでした。毎回会衆は、救霊への情熱に満たされ、やっぱり教会の第一の使命は「伝道だ!」ということを再認識させられました。沖縄にとつて時宜に合ったセミナーでした。沖縄滞在最後の晩(二三日)は、聖川教会で感謝の愛餐の時を持ちました。崔先生はセミナーについて、沖縄の先生方に感謝を求められました。先生方に共通した答えは、初心に帰つて「伝道に全力投球」するために再献身するということでした。

復活後、弟子達に与えられた宣教命令(マタイ二八・一九、マルコ一六・一五)の御言葉に押し出され、聖靈に満たされて「伝道に励みましょう!」の掛け声で素晴らしい交わりの愛餐会は終わりました。

崔先生をお迎えしての「伝道力アップセミナー」は民福協全てのブロックで持つてほしいと願わされる恵まれたセミナーでした。日本の全ての教役者・信徒が立ち上がり、一丸となつて「伝道」に励むなら、日本民族総福音化は大きく大きく前進すると信じます。

セミナーを受けし信徒ら

み言葉と御霊によりて

伝道に燃ゆ

六名が加わり、親しい雰囲気の中で、楽しくかつ率直な祈りと意見交換がなされた。(行澤記)